

愛知サークル6月例会報告

2019年6月22日（土）豊川市一宮生涯学習会館 参加：6名

コンセプト：1学期の実践報告

① 追求Ⅰ 文学教材の追求

[3・4年「雀の子」]

参加者の中に「雀の子」の解釈初参加という会員がいたので、急遽、実践報告者による模擬授業を行った。

初めに、この俳句のイメージをもつ。イメージが変わるための第一歩は何をやるか。

① 分かるために分ける。

② 変だ、おかしい、気になる言葉を出す。

③ 問題をつくる。この中で、

自分で雀の子をどかせばいいのに、助けに行けばいいのに、しない。変だ。おかしい。という問題ができる。そのほか、「雀の子」や「御馬」で問題作り・・・と、やっていった。やはり問題づくりを教師がどれだけできるか、そして、核となるいわゆる「大問題」をいかにして子どもたち全員の追求したくなる問題になるまで、イメージを広げたり深めたりできるかが、授業の鍵かなと改めて思った。

俳句という教材については、俳句全部が「 」に入るセリフだと思えばいい。俳句は、作者の感動を言葉にしたものである。特別だから、俳句にしているという認識を学んだ。

② 「追求Ⅱ」

<総合表現> 「おむすびころりん」

登場人物の木は動かないという思い込みを捨て、普通は動かない木まで動いてみたくなるほど、おむすびが魅力的なんだというように考えていくと面白くなる。総合表現では木だって動いていいのだ。そして、セリフを言っていないときが大事なんだ。ということを確認した。

<描画> 「版画」「桜の葉」「レース編み」「ちぎり絵」

- 版画は、「刀で描く」。写真を見て描くにしても、写真は形だけ。写真の中で、強調したいところを誇張して描く。
- 「レース編み」。3年生で、これだけ集中できているのは素晴らしい。外側になっても大雑把になっていない。
- アジサイのちぎり絵。隙間無く貼るより隙間があったほうがいい。隙間を1年生が見つけている。

<体育> 「前転」

イメージの言葉かけが効果的である。小さな前回りの場合は、「おへそを食べるように」というと、丸くなる。小さな前回りは、転がる練習と考え、ボールになるイメージでやるとよい。

○授業者である教師は、子どもたちの力を引き出し伸ばすためによい教材を選んでいくことが大事であるという認識がまだまだ不十分であった。また、周囲に教材重視の姿勢を伝えていく意気が必要であることを確認した。